

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500012		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	中津川ケアハートガーデン グループホームなかむらの郷		
所在地	岐阜県中津川市中津川3042-39		
自己評価作成日	平成28年11月13日	評価結果市町村受理日	平成29年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=trus&amp;ligyosvoCd=2191500012-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=trus&amp;ligyosvoCd=2191500012-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成28年11月29日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体法人の組織的な研修体系があり スタッフの資質向上を目指し、社内外の研修に参加し、常にケアの向上を目指している。ケアマネジメント「センター方式」を活用する為に、母体法人からの講師と認知症介護研究・研修センターからの講師による認知症の基本と活用方法を学び、利用者本位のケアと個性を重視したケアに取り組んでいる。地域の方々の訪問も多く、交流や地域貢献も行うなど関わりを大切にしている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市の中心部にあり、多くの社会資源が身近にある。また、丘陵地に立地し、窓からは、のどかな田園や遠くに広大な山並みが見えている。職員は、利用者が、日々馴染みの風景に触れながら、手先を使った作品づくりやゲームを楽しみ、脳の活性化につながるよう支援している。筆で描いた渦巻き模様は、見事な芸術品である。母体法人に準じた雇用条件の下に、資格取得や研修の諸費用を全額負担し、職員のスキルアップに力を入れている。介護現場で人材確保が難しい中、現在は、高校の福祉学科卒業生2名が就労している。職員は、利用者の個性を尊重し、一緒に喜びを分かち合いながら、支援に取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月2回の会議の場でスタッフ全員で理念を唱和し、共有して、常に意識できるよう実践している。	理念は、事業所の目立つ位置に掲示し、職員会議の場で、その意義を共有している。利用者が、日々不安なく、皆で喜びを分かち合い、住み慣れた地域の中で、その人らしく暮らせるように実践をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	GHの記念行事に参加していただく。近所の方から定期的に野菜をいただく。学区の資源回収への貢献などを実施。近隣に子供が大勢住んでいるため、地域の方と相談し通勤時の車の運転に配慮を行った。あいさつは常に心掛けている。	自治会の一員であり、回覧板が廻っている。地域の一斉清掃や資源回収、防災訓練などに参加している。老人クラブのボランティアによる包丁研ぎ、庭の草むしりや、菓子作りのボランティアの訪問がある。事業所のイベントには、近隣住民を招いて、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	GHの記念行事に参加していただいた地域の方にGHでの取組紹介するなど交流の機会を作った。AED設置について地域の方に設置情報を公開した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	GHでの利用者の生活の様子を写真等で紹介している。 地域の方とのボランティアの紹介のきっかけ作りにもなっている。	運営推進会議は、行政、自治会長や民生委員、家族が参加して開催している。ホームの近況を報告し、行政担当者から制度上の最新情報を伝えてもらうなど、活発な意見交換をしている。感染対策や職員の充足状況なども話し合い、サービスの向上と運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	成年後見制度の利用についての相談。介護相談員の受入。GH部会議時の情報交換など定期的に実施。市の会議、講演会に積極的に参加して情報交換を行っている。	市の担当者へは、常に運営の実情を報告している。グループホーム部会や講演会、研修会等で情報を交換し、運営に反映させている。介護相談員の受け入れや事故報告、介護度見直しなどでも助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないよう普段のケアの中で、施錠や利用者本人の行動をさえぎる行為、言葉の制止を行わないよう取り組んでいる。	身体拘束をしないケアを実践している。言葉による拘束についても同様に、拘束の弊害を学び、正しく理解し、周知・徹底している。検討会では、拘束の具体例や弊害を取り上げて話し合い、利用者の自由な行動を見守りながら、支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については年度初めに研修を実施し、虐待防止への理解に努めている。		

岐阜県 グループホームなかむらの郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方もいる。今後も必要性を見極め、活用できるように努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望者には早めの連絡を行い事前の説明や意見交換を行い、利用者本人様ご家族が納得された上で契約行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時や面会時等の会話の中で要望を聞き、スタッフ会議にて検討している。また、2ヶ月に一度介護相談員の訪問あり、その中でも利用者の要望等伺っている。	第三者的立場の介護相談員が、利用者の要望を聴き、その報告を受け、本人の思いを把握している。家族からは、面会時や交流会、電話等で聞いている。衣服の汚れや電話対応についての要望があり、改善をしている。アンケート調査では、満足度が高い。	なかむらの郷便りや利用者の近況報告書等で、家族との信頼関係の構築に努めている。更に、家族の訪問時や電話での報告等で、職員の思いが的確に伝わるような工夫と、コミュニケーション力に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者はスタッフ会議に参加し、スタッフとの意見交換に努めたり、スタッフからの意見・要望は月1回のシニア会議の場などで検討し、改善策を講じるように努めている。	職員の意見を聞くためのスタッフ会議とシニア会議がある。利用者サービスの改善や事業所内の整理整頓、連絡事項の徹底、勤務調整、親睦会、職員のスキルアップなど様々な課題を話し合い、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの日々の取り組みや実績、自己研鑽などにより夫々に応じたベースアップや賞与を支給している。様々な資格取得に対しての奨励金制度やレク補助制度を設け、働きやすい職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で外部講師による研修を実施。職員の力量に合わせて法人外の様々な研修への参加を奨励して、スキルアップを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のGH部会に参加し、定期的に情報交換と合同研修を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談の段階から本人の意向や要望などを把握したり、入居後はスタッフ全員でアセスメントシートの24時間パターンシート・D-4シート等を記入して情報を共有し、安心して暮らして頂けるように信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とは入居前の事前面談時にゆっくりお話をするようにし、困り事・心配事を話しやすい雰囲気を作り意見、要望を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望された時から事前面談を通して状況把握やサービスの必要性を見極め、他のサービス機関への情報提供を行うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が今できる事・やれることを見極め、食事作り、掃除、洗濯など、職員と一緒にしている。料理の味見をしていただき、味を教えて頂くこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にご自宅での生活の様子を聞き支援のヒントを得ている。家族交流会では、ご家族に協力をしていただきながら、五平餅作りを行った。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元のお祭りに参加したり、住んでいた場所、働いていた場所など馴染みの場所へドライブ巡りをしたりして会話を弾ませている。	子どもや孫、知人の訪問が多く、理美容院や外食、買い物などで、馴染みの店へ出かけている。老人クラブの人や芸能ボランティア、介護相談員も馴染みである。わいわいサロンには、継続して出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入りながら、利用者さん同士交流を持っていただけるように努めている。他ユニットとの行き来があり、顔なじみの関係ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も家族様が営んでいらっしゃるお店を利用させていただくなど交流を行なっているが、全員の方にはできていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用しながら、ケアカンファ・スタッフ会議で職員全員で利用者様の気持ちを探り、本人本位のケアができるよう努めている。	日々の会話や行動、表情から思いを把握している。家族からも生活歴や習慣、こだわりなどの情報を得ている。元気がなかったり不安な様子があれば、笑顔で寄り添い、傾聴に心がけ、本人本位の暮らしができるよう支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に記入していただいた暮らしの情報シートを職員で共有し、施設での生活支援に生かしている。また、暮らしの情報が不足している部分はご本人との会話の中で探るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録を活用し、毎日の入居者の状態の変化を見逃すことのないよう、スタッフ同士で情報を共有し申し送りをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成の際は、職員全員で現在のご本人の状態を見極め、必要な支援は何なのか考えるようにしている。また、ご家族にケアカンファレンスに参加していただくこともある。	介護計画では、職員の意見や気づき、関係者の意見を踏まえ、本人・家族の意向を反映し作成している。利用者の自立を支え、食べる意欲と健康を維持し、安心して暮らせる介護計画になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	統一したケアをするため、様子やうまくいったケアなどを共有し、その人に合ったケアを見つけ出している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良時には、車いす・ポータブル加湿器を利用。車いす利用者の外出、通院時には、車いす対応の社用車にて対応している。		

岐阜県 グループホームなかむらの郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の喫茶店で開催されるふれあいサロンへの参加をしたり、近所への買い物に行ったりしている。 2ヶ月に一度の介護相談員受入することで、利用者様の気付かなかった意見を伺っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望により、かかりつけ医を継続する方と、GHの協力医に変更される方がある。協力医は2週間ごとに往診があり、全員の方を診られ、24時間体制で相談や緊急対応を受けられるようになっている。	今までのかかりつけ医を継続し、希望者は協力医に変えている。協力医による往診と24時間の連絡体制を取り、専門医への受診は、職員が代行している。主治医と看護師、職員が連携し、急変時にも万全を期している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師配置となっており、入居者の情報共有を行い、健康管理やスタッフへのアドバイス・スタッフからの相談・対応などの支援を行っている。時には家族への説明、医師との連絡もとってもらい24時間体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、主治医からの依頼と情報提供がされており、GHからも情報を提供し、常に病院関係者との信頼関係作りを努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた家族の話し合いを持つ時期だと判断した時、家族、医師の意見を聞きながら、意向確認を行っている。面会時、月次報告書等で日頃の状況を伝え、おとずれる終末期前からの経過を伝えている。	重度化した場合の対応指針を整えている。重度化については、協力医による継続した医療が可能であり、本人の状態に応じて、家族と主治医、関係者で話し合いを重ね、合意の下で看取りの支援体制がある。現状は、入院対応を優先している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ全員が年1回の救急救命講習を受け、緊急時、特変時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害を想定した訓練を全スタッフがいき、年1回は消防署の職員の立会いで総合防災訓練を行って助言や指導を受けている。現在は夜間想定した訓練を行っている。	自主訓練を含めて、年に4回の災害訓練を、昼夜を想定して実施し、通報、避難、消火、AEDの取り扱い等を行なっている。連絡網には、自治会長も名を連ねている。防災マニュアルを整え、備蓄品や防災用品を確保している。	各地で多様な災害が発生している。それらを想定し、総合防災対策のマニュアル化と既存の見直しにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの方の人間性や性格をきちんと把握し、職員で話し合いながらその方に合った声掛け・対応を考えつつ行っている。	職員は、常に、思いやりの心を持って、優しく接している。また、その人らしさや自己決定を尊重し、誇りを損ねないよう努めている。声かけの際は、目線を合わせて穏やかに語りかけ、身体ケアでは、羞恥心に配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	関わりの中で、その方の希望や好みを理解しようとしている。希望がある事は声掛けし自ら行ってもらったり、嗜好品を選んでもらったりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何かする時にはご本人に声かけ、同意を得ながら、その方の一日のペースを大切にしながら過ごしていただくよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んで頂いたり、自分なりに着替えられて来る方には服装を話題にしたり、ヒゲそりの仕上げを行ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理を一緒にできることは行ない、味見、盛り付けなどを行うことで、食事を楽しみにしていただける工夫を行なっている。食後の下膳、テーブル拭きなどそれぞれの力に合わせてやっていただいている。	食材は旬の野菜を使い、家庭的な味付けをしている。利用者は、盛り付けや片づけ、野菜のすじとり、包丁も器用に扱っている。職員も一緒に食べながら、誤嚥のないよう気を配り、ゆっくりと楽しい時間を共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態は嚥下機能等を確認しながら、その方に合ったものにしていく。各食事の摂取量と水分量をD-4に記入し、情報共有を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後はその方の習慣もあり全員行えないが、夕食後だけは声掛け、皆さん口腔ケアを済ませ休んで頂く。		

岐阜県 グループホームなかむらの郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人記録により排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。パット交換の際には、排泄後のタイミングを見計らってさりげなく交換させて頂くようにしている。	自立度の高い人は布パンツを使用し、昼夜共に、トイレでの排泄ができている。尿意のない人や不安定な人は、こまめにトイレへ誘導している。夜間は、センサーで感知し、失敗を減らすように支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日のうち、昼食前に運動して頂けるよう体操の時間を設けている。毎日朝食時にヨーグルト、ヤクルトなど乳製品をメニューに入れ、食事から便秘改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は決まっているが、その方に合った湯の量・温度と安心安全に入浴を楽しんで頂けるよう関わっている。	入浴の回数や時間帯は、個々の希望に応じている。汚れた場合は、シャワーや部分洗浄を行い、浴槽は、個浴とリフト付きがある。その人の希望する湯温や時間に合わせ、ゆったりと心地良い入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい時は居室にて休んで頂くようにしている。また、その方の体力や体調に合わせて昼寝の時間を設けたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の記録に常に目を通し、症状の変化が見受けられるようであれば、スタッフ同士の話し合いを持ち、変化の確認をしている。医師、ナースとも連携を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除機をかけることを日課にしている方、毎日新聞を読まれる方など、スタッフ全員その方のお好きな事を理解し支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日にはベランダに出て、日向ぼっこをしたり、外でお茶をしたりしている。また月1回は外出できるような行事を作り、外出できる機会を多く作られるよう努めている。	周辺の散歩や、ベランダでの外気浴は日課になっている。定期的に、外食、買い物、ドライブ等に出かけ、年間行事では、季節の花見やイチゴ狩り、紅葉狩り等に出かけている。普段行けない所へは、家族の協力を得ている。	

岐阜県 グループホームなかむらの郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物と一緒にいった時など、欲しい物を購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望された時にいつでも電話や手紙が送れるようにしている。友人と定期的にハガキを送りあっている方や携帯電話を持ち、好きな時に家族に電話して見える方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様がまぶしければカーテンを閉められるので、それに合わせスタッフは空調、照明などを調整する。温度、湿度計を設置して確認している。トイレも重なり合う時は衝突のないよう誘導を行っている。リビングには季節の飾りを作り季節感を感じていただけるようにしている。	玄関には、絵画やはり絵の作品を飾っている。万が一の為のヘルメット、AEDも置いている。共用の間は、広くて明るく、対面式キッチンには生活感がある。壁には、手づくり作品や長寿の記念賞状、行事の写真などを飾り、居心地のよい空間である。窓越しに、季節の風情が見えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の様々な場所にソファを設置し、好きな時に好きな場所で過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた馴染みの物を居室内で使用して頂くようにしている。写真や作成した作品を居室内に飾り、居心地の良い空間作りに努めている。	厚板の表札を掛けた居室には、クローゼットを備えており、整理整頓されている。使い慣れた整理タンスや椅子、鏡等を配置し、ぬいぐるみや家族の写真、絵画などを飾っている。また、ホワイトボードに本人が書いた予定表、家族が持参した暖簾が個性的である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋やトイレは、解り易く表示したり、夜間はトイレ内の電気を点灯したままで混乱を招かないようにし、自立支援を心掛けている。又状況によりベッドセンサーを使用し転倒などがないように見守りも行っている。		